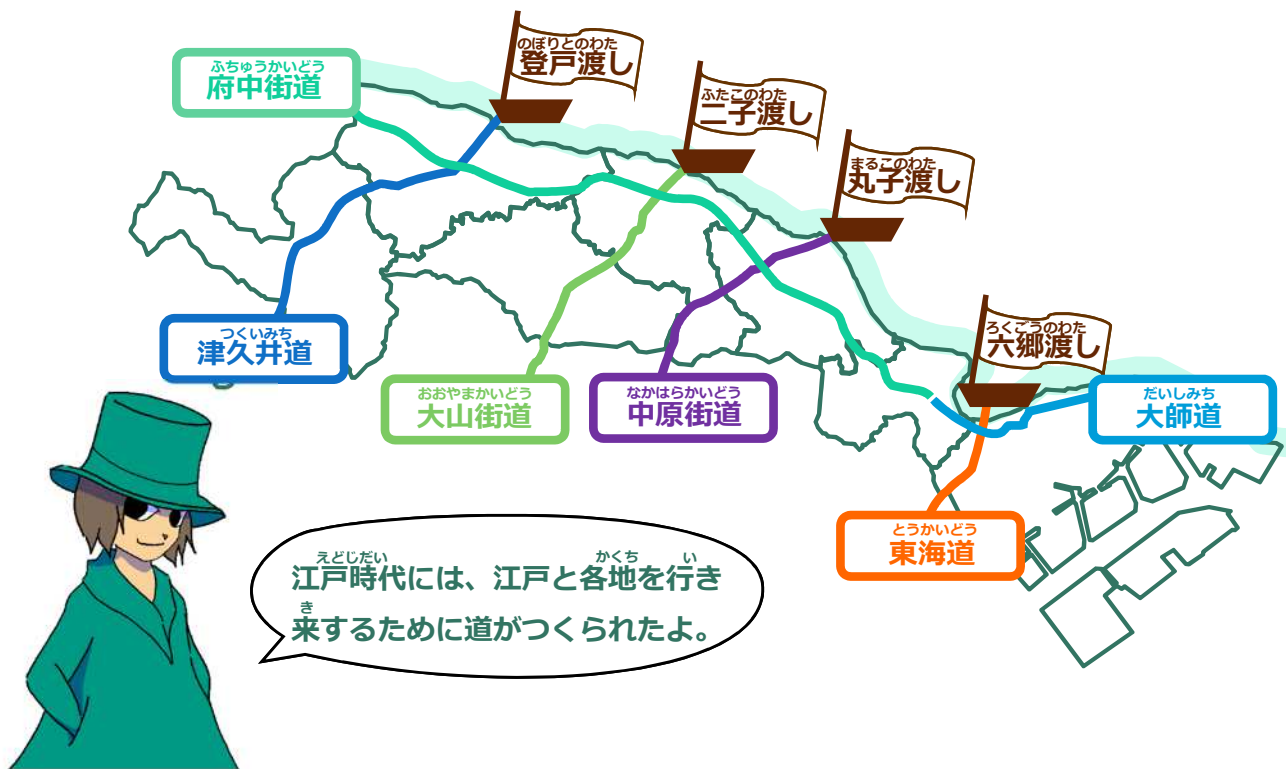


まちな まちの成り立ち ーまちはどうやってできるのかな



- ① きゅうかいどう 旧街道
- ② てつどう 鉄道
- ③ 町・村
- ④ りよう 土地利用

① きゅうかいどう 旧街道



えどしだい 江戸時代には、江戸と各地をいき かくち い 来るために道がつけられたよ。

つくいみち 津久井道

かいどう 津久井・愛甲の絹を江戸へ送るいわゆる「シルクロード」として利用されると同時に、くろかわすみ 黒川炭などの特産物も運ばれていました。

ぼくまつ あんせい 幕末の安政の開港にともない絹は横浜へ運ばれるようになり、江戸向けの物資も減りました。

ふちゅう 府中街道

かわさき ふく むさしのくに こくふ お この街道は、川崎を含む武蔵国の国府が置かれていた府中へ続く道です。

かまくら ばくふ ひら 鎌倉に幕府が開かれるようになると、かくち ぶしょう むす せいじ ぐんじ 各地の武将と鎌倉を結ぶ政治・軍事上の道、「鎌倉道」が生まれ、府中街道の一部もその役目を果たしていました。

おおやま 大山街道

しろうぎょう しょうぎょう するが まわた いず しいたけ かんぎょ ぶっし ゆそう この街道は、古くから大山詣での道として知られ、また駿河の茶や真綿、伊豆の椎茸、乾魚などの物資を輸送する商業ルートとしても重要な役割を果たしてきました。

なかはらかいどう 中原街道

この街道は、^{ひらつか}平塚の^{とくがわいえやす}中原に^{ごてん}徳川家康が御殿をつくり、^{とお}そこを^{えど}通って^む江戸へ向かいました。
中原^く区の区名は、^{ゆらい}中原街道が由来とされています。

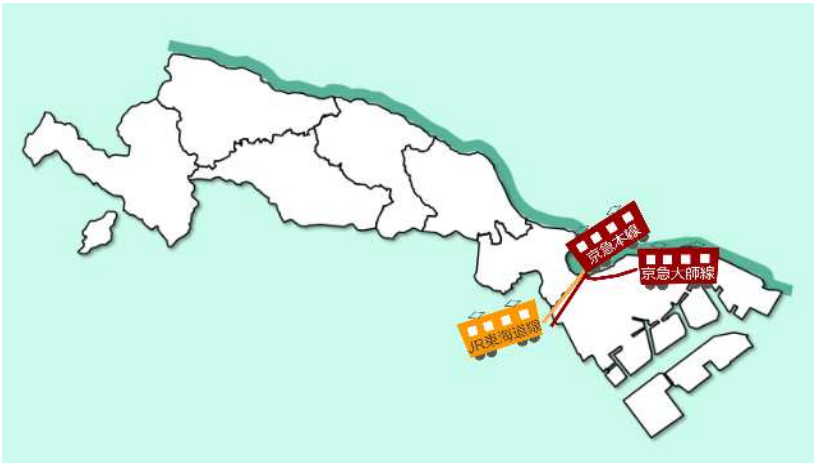
とうかいどう 東海道

^{きょうと}江戸と^{むす}京都を結ぶ道です。
^{かわさきしゆく}川崎宿は^{ほか}他の宿より^{おく}遅れて^{げんな}元和9年（1632年）^{ごろ}頃に作られました。
東海道を上る^{たびびと}旅人には、^{ろくごう}六郷の^{わた}渡しを^{ひか}控えた^{さいご}最後の^{しゆくはくち}宿泊地に、^{かわさきだいし}そして^{さんけい}川崎大師の^{きよてん}参詣の^{にぎ}拠点として^{しゆくば}賑わった宿場
でした。

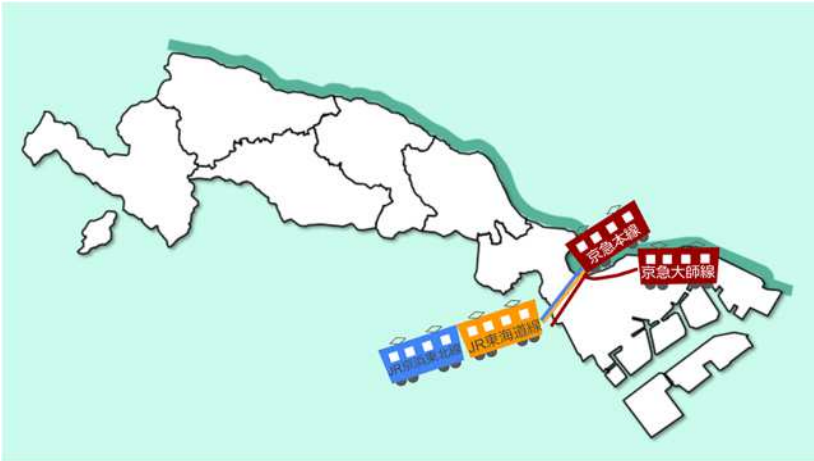
② てつどう 鉄道



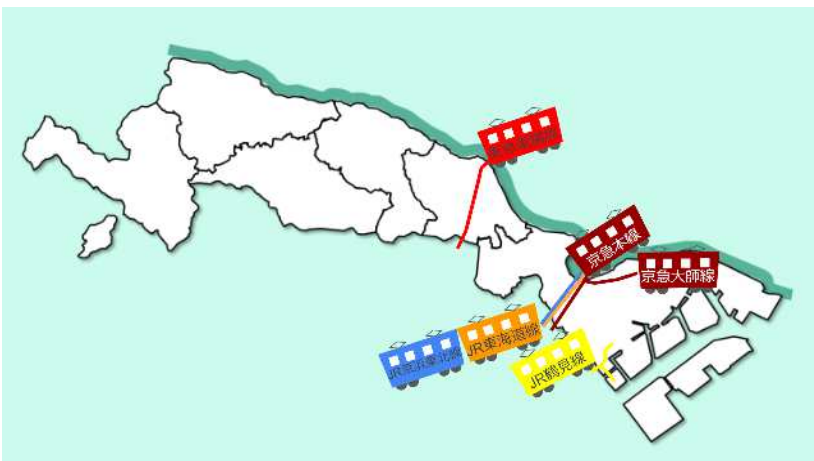
- ① 1872年、新橋駅（現・汐留駅）—横浜駅（現・桜木町駅）間で日本最初の鉄道が開通。川崎駅は日本で3番目の鉄道駅として開業。



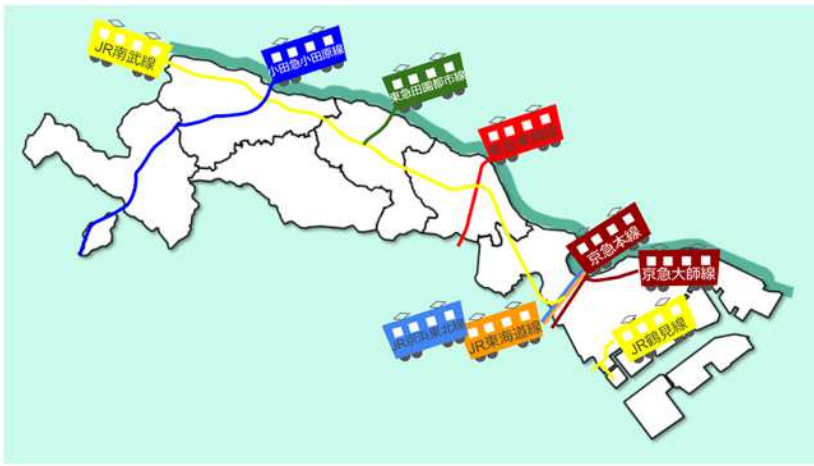
- ② 1899年～1902年、川崎駅（現・京急川崎駅）—大師駅（現・川崎大師駅）間で大師電気鉄道が開通。1901年～1905年、品川駅（現・北品川駅）—神奈川停車場前駅（現・神奈川駅）間が開業。



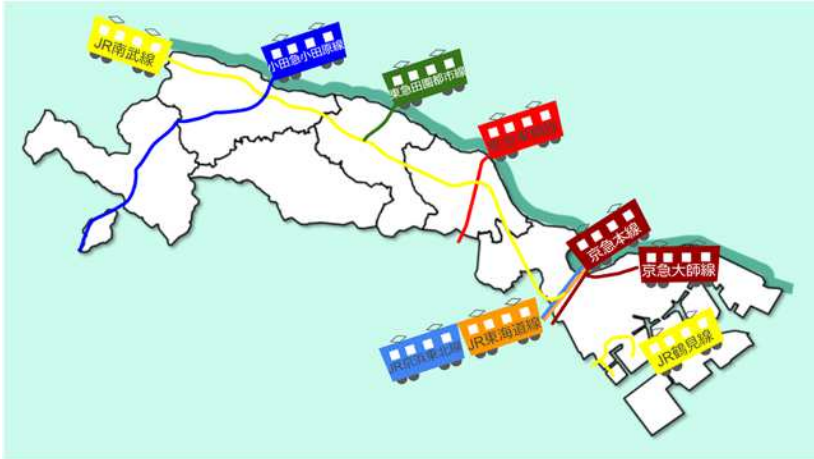
- ③ 1914年、東京駅—高島町駅（のちに廃止）間で京浜線（のちのJR京浜東北線）として開通。



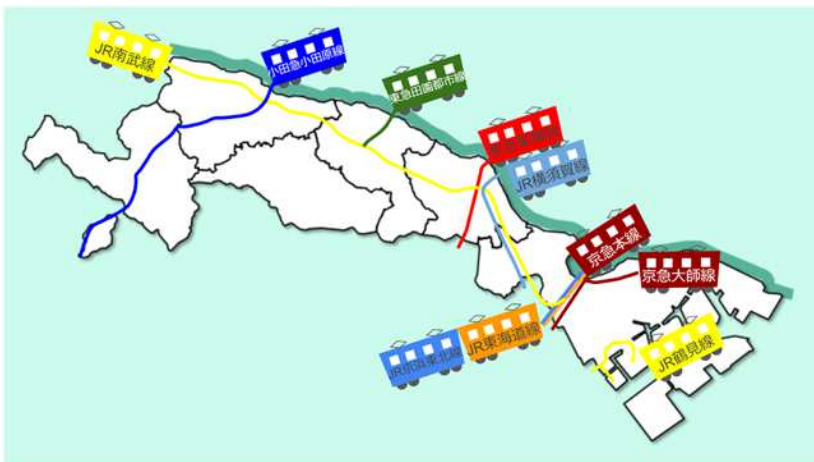
- ④ 1926年、丸子多摩川駅（現・多摩川駅）—神奈川駅間で東京横浜電鉄（のちの東急東横線）が開通。浜川崎駅—弁天橋駅間で鶴見臨海鉄道（のちのJR鶴見線）が開通。



- ⑤ 1927年、川崎駅おおまる—大丸駅みなみたま（現・南多摩駅）間なんぶで南武鉄道（のちのJR南武線）が開通。新宿駅しんじゆく—小田原駅おだわら間で小田急小田原線おだきゆうが開通、二子玉川駅ふたこたまがわ—溝の口駅みぞのくち間で多摩川電気鉄道（のちの東急田園都市線・目黒線）が開通。



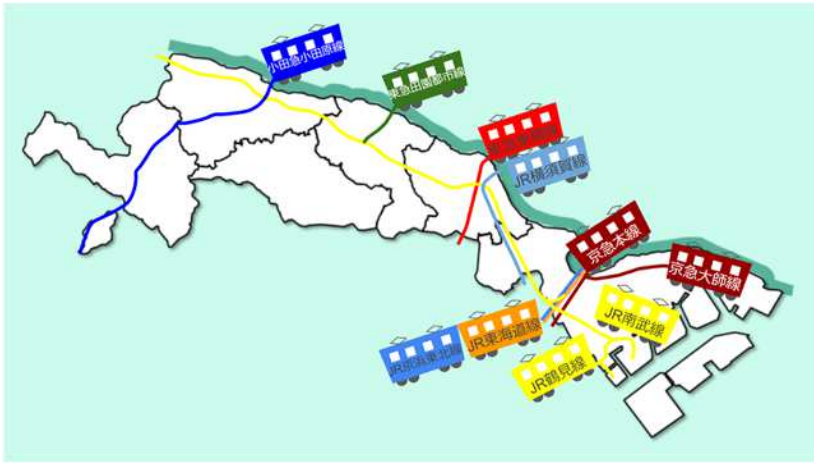
- ⑥ 1928年、JR鶴見線えんしん浜川崎駅おうぎまち—扇町駅間が延伸開通。



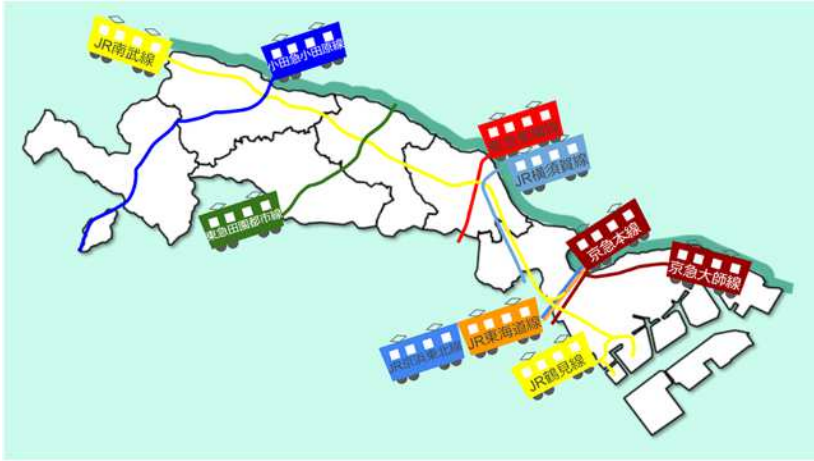
- ⑦ 1930年、品川駅しんつるみそうしゃじょう—新鶴見操車場ひんかく—鶴見駅かもつ間で品鶴線（貨物線）が開通。1980年りよかくに旅客化され、JR横須賀・総武快速電車よこすかが走るようになった。



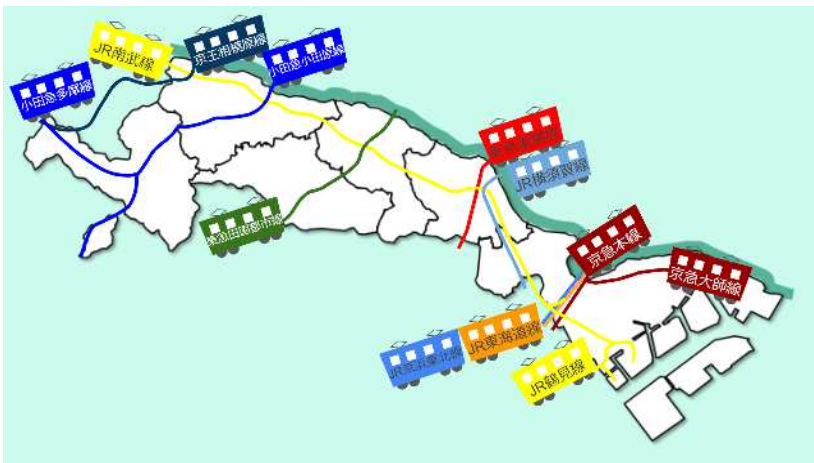
- ⑧ 1930年、JR南武支線しせん尻手駅しって—浜川崎駅間が開通。



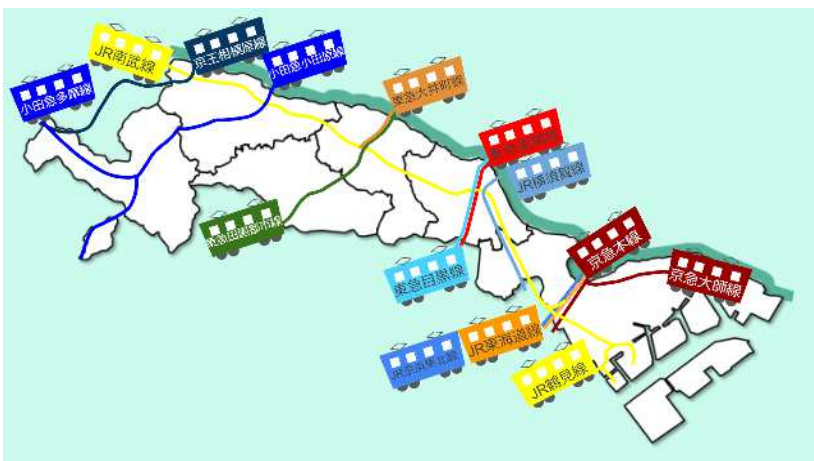
- ⑨ 1944年、京急大師線川崎大師駅—^{こじま}小島^{しんてん}新田駅が延伸開通。



- ⑩ 1966年、東急田園都市線溝の口駅—^{なが}長^{つた}津田駅間が延伸開通。

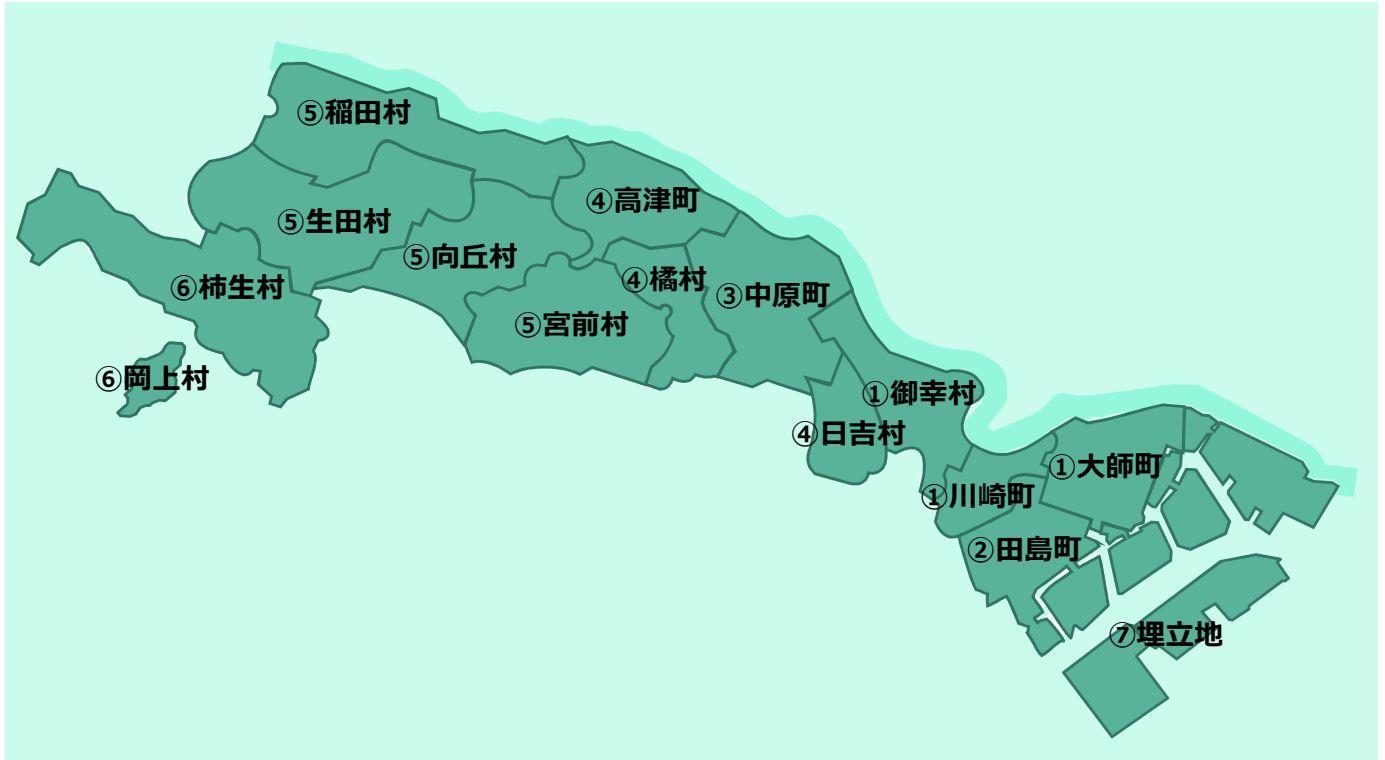


- ⑪ 1971年、^{けいおう}京王多摩川駅—京王よみうり^{さがみはら}ランド駅間で京王相模原線が開通。
1974年、京王よみうりランド駅—京王多摩センター駅間が開通。小田急多摩^{しんゆりがおか}線、新百合ヶ丘駅—小田急永山駅間が開通。



- ⑫ 2000年、^{ちょうふ}田園調布駅—^{むさしこすぎ}武蔵小杉駅間、^{うんこうかいし}東急目黒線が運行開始。2008年、東急目黒線が武蔵小杉駅—^{ひよし}日吉駅間を延伸。2009年、東急大井町線が^{おおいまち}溝の口駅まで延伸。

③ 町・村



- ① 1924年に川崎市が誕生！大師町、川崎町、御幸村の3つの町村が集まって誕生したよ。
- ② 1927年に田島町が仲間入り。
- ③ 1933年に中原町が仲間入り。
- ④ 1937年に日吉村の一部、橋村、高津町が仲間入り。
- ⑤ 1938年に宮前村、向丘村、生田村、稲田村が仲間入り。
- ⑥ 1939年には柿生村、岡上村が仲間入り。岡上村は明治時代から柿の生産と出荷を通じて柿生村と交流があったことから、柿生村と一緒に川崎市に仲間入りすることになったんだよ。
- ⑦ 1941年から1981年の間に海が埋め立てられたよ。こうして、今のような形に広がっていったんだよ。

④ 土地利用

土地の使われ方はどのように変化しているのかな。

1971年



1981年



2000年



2020年



じゅうたくけい
住宅系



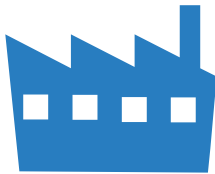
いっこだ じゅうたく
一戸建ての住宅、マンション、アパートなど

しょうぎょうけい
商業系



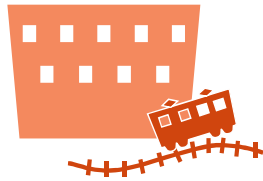
お店、レストラン、ホテル、ゲームセンターなど

こうぎょうけい
工業系



こうじょう
工場など

うんゆきょうきゅうしせつ
運輸供給施設



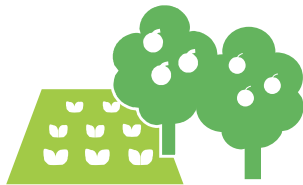
えき ばすたーみなる、そうこ いちば
駅、バスターミナル、倉庫、市場など

こうきょうしせつ
公共施設



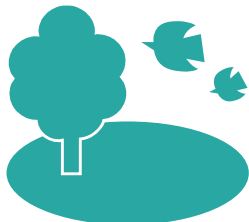
がっこう としよかん やくしよ
学校、図書館、役所など

のうち
農地

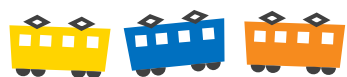


田んぼ、畑など

た りよくち
その他の緑地



公園、緑地など



川崎市の様子（鉄道）のうつりかわりをまとめよう



今から 90 年くらい前（戦争前後） 昭和のはじめ（1926～1945 年ごろ）	今から 50 年くらい前（高度成長期） 昭和の中ごろ（1955～1973 年ごろ）	今 令和（2019 年～）

どんなふうにかわったかな。



さき
川崎市の様子（町・村）のうつりかわりをまとめよう



今から 90 年くらい前（戦争前後） 昭和のはじめ（1926～1945 年ごろ）	今から 50 年くらい前（高度成長期） 昭和の中ごろ（1955～1973 年ごろ）	今 令和（2019 年～）

どんなふうにかわったかな。



川崎市の様子（土地利用）のうつりかわりをまとめよう



今から 90 年くらい前（戦争前後） 昭和のはじめ（1926～1945 年ごろ）	今から 50 年くらい前（高度成長期） 昭和の中ごろ（1955～1973 年ごろ）	今 令和（2019 年～）

どんなふうにかわったかな。
